

ここはエルフが統治する国の
辺境にあるとある領土

かつてここは産業も資源もなく
作物の育たない土地の広がる荒廃した領土だった

王国に見放されたこの土地に俺の父は
半ば厄介払いの如く領主としての任を与えられた

だが父はこの逆境をもともせず
土地を拓き道を敷きこの土地の繁栄の為に尽力した
そしてあの日鉱物資源の調査中に
偶然掘りぬいた岩盤から熱い水が噴き出した時から
この土地は繁栄へと進み始めた

後に分かったことだがこの土地は
温泉の湧き出る好条件を全て備えた土地であり
領土のそこかしこで多種多様な効能を持つ温泉が発掘された

追放同然で流されてきたこの土地は
今や国随一の湯治場として発展し
父は領民から英雄と崇められ
病気で死ぬその間際まで領地の繁栄に尽力していた

父親から全てを受け継いだ俺のもとには
この地にあふれる数々の利権を求めて
各界の権力者から様々な贈答品が
送られてくるのであった

数日に及ぶ盛大な結婚式の後
俺は花嫁たちを屋敷の傍にある
室内温泉庭園に呼び出していた

彼女たちはあまり性に関する知識が無いらしく
それを利用してまだ純粋な彼女らに
いたずらをしてみることにした

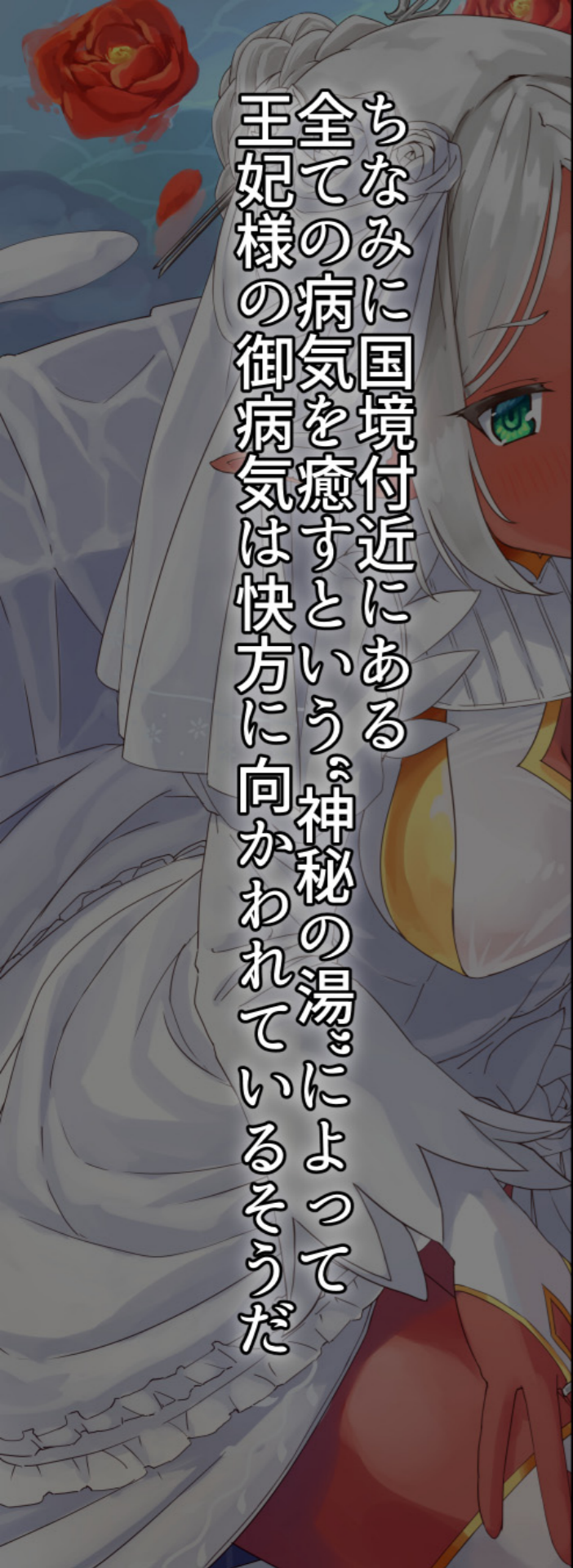


「アメナス」

この領地の隣に存在する小国の姫様だ
母である王妃様の病気の特効薬となる温泉が
あるということを知りつけると
王に自分を妻として差し出すように
と自ら進言したという



ちなみに国境付近にある
全ての病気を癒すという「神秘の湯」によって
王妃様の御病気は快方に向かわれているそう



「メロリア」

大陸全土に信者を抱える
教会が認めた7人の聖女の一人

雪よりも白い肌と白銀の髪を
持つ^①純白の女神^②その人だ



教会の目的は

《最高位の司祭3人が9日間祈禱を捧げた聖水》
に匹敵する効果を持つ温泉

①女神の沐浴場^②の権利とこの地での拠点設置だ

「キティイカ」

妖精族との交易によって
発展した商業都市を治める領主の愛娘だ
彼女の父親は俺の父親とは
無二の親友であり彼の館には
何度も訪れたことがある



初めて館を訪れた時
池のほとりで横笛を吹いていた彼女に
一目で心を奪われてしまった

その後はなぜか一度も彼女と
出会うことはなかったが
あの時の光景が忘れられず
こちらから彼女を妻に貰えないかと頼み込むに至った

誓いの儀式…ですか？
それなら式の途中では
幾度も行つたではないですか…

この地方限定の儀式？
そんなの聞いたことないよう

そのような風習があつたなんて…
無知で申し訳ございません…



これが…おちんちんと
いうものなのですね…
わたくし初めて見ましたわ…

ねえパパあ？
これで合ってる？
ちやんと気持ちいい？

なにぶん初めての事ですので…
ご指導のほど宜しくお願いします

わろ

ろ
3

せん
せん

これが旦那様の
精液なんですかのね…
すごい臭いで
クラクラしてしまいます…

パパもしかして溜まってたの？
こんなにかいっぱい出るなんてすごーい

うう…すごい味です…
早くこの味にも慣れなければ
いけないのですね





んっく……んっく

んっく……んっく

んっく……んっく

ドロドロでまだ喉に引っかかっている感じがしますわ…
本当にこれが誓いの儀式なんですか？

どうかかな？
全部飲めたよ？
これでちゃんとパパのママになれたの？

なんとかか…
できました…

満足頂けましたか…？

ドキ
ムキ

ドキ

ムキ

ドキ

ムキ

旦那様…これで
宜しいのでしよつか…？

わたくしはもう…
旦那様に嫁いだ身ですので…
わたくしのことは
—国の女王ではなく
—人の妻として…

ドキ

女として扱ってくださって
構いませんわ

ドキ

実はわたくし…
このようなことは初めてで…

その…

優しくして頂けると…
うれしい…です…

パパあ

ママとの子ども何人欲しい？
好きなだけ生んであげてる

え？そうだよ？
今からパパとママで
子作りするんだよ

一億以上の信者を抱える教会に
担ぎ上げられた聖処女…

純白の女神の絶対不可侵領域を
今からパパのガチガチちゃんぽで
ぐつつちやぐちやに犯してもらうんだよ？

